

京都大学	博士（社会健康医学）	氏 名	吉開 恵
論文題目	Presenteeism and Social Interaction in the “New Normal” in Japan: a longitudinal questionnaire study（COVID-19 パンデミック下「新しい生活様式」における社会的交流や社会的支援とプレゼンティーズムに関する縦断的アンケート調査を用いた記述と分析）		
＜背景＞ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、各国で外出や行動を制限する政策が実施された。日本では「新しい生活様式」が導入され、社会的交流や支援に関する課題により、プレゼンティーズムによる労働生産性低下への懸念が高まった。 ＜目的＞ 「新しい生活様式」を余儀なくされた、COVID-19感染拡大後におけるプレゼンティーズムと社会的交流・社会的支援の関係を明らかにした。 ＜方法＞ 「COVID クライシスに順応する持続可能な健康・経済・社会システムのあり方に関する研究」インターネットモニター調査によって得られた 2020 年 10 月から 11 月、2021 年 7 月から 8 月、2021 年 9 月から 10 月の 3 回分の調査データを使用した。学生、専業主婦・主夫、失業者を除いた、20～69 歳男女を象とした。記述統計としてプレゼンティーズム、社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの関係に焦点を当てた。更に、交絡因子を調整し、社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの影響について、重回帰分析を行った。重回帰分析では、絶対的プレゼンティーズムスコアを目的変数、社会的交流・社会的支援に関する 5 つの要因を各モデルの説明変数とした。 ＜結果＞ 3,407人が分析の対象者となった。2021年9月から10月の調査では、絶対的プレゼンティーズムスコアの平均値は58.07（SD=19.71）であった。社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの関係の記述では、「会話時間が減った」、「社会的支援の人数がより低い」、「社会的支援への満足度がより低い」集団でプレゼンティーズムが生じていた。重回帰分析の結果より、COVID-19感染拡大により行動制限が求められた期間において、感染拡大前より家族との会話時間が減少した場合や、社会的支援者の人数が少ない、支援の満足度の低い場合、プレゼンティーズムが生じやすくなると考えられる。 ＜考察＞ 家族の会話時間が減った場合、プレゼンティーズムが起こりやすくなるという結果は、ストレスの多い環境で家族の果たす役割が重要であることを考慮すると妥当と考えられる。社会的支援者の人数が少ない、社会的支援に関する満足度が低い場合、プレゼンティーズムが生じやすいという結果は、職場の支援者の人数や支援に関する満足度に焦点を当て調査した過去の研究と一致した。 ＜結論＞ 行動制限や生活の変化が求められた COVID-19 蔓延下において、感染拡大前に比べた家族との会話時間が減少した場合や、社会的支援者の人数が少ない、支援の満足度が低い場合、プレゼンティーズムが生じやすくなる可能性が示された。			

（論文審査の結果の要旨） 本研究は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延下のプレゼンティーズムと社会的交流・社会的支援状況を明らかにし、社会的交流・社会的支援状況とプレゼンティーズムの関係を検討することを目的とした。 プレゼンティーズムとは、出勤しながらも、何らかの理由で仕事のパフォーマンスが低下している状態を指す。インターネットモニター調査で得られたデータを使用し、記述統計としてプレゼンティーズム、社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの関係に焦点を当てた。 更に、交絡因子を調整し、社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの関係について、重回帰分析を行った。 社会的交流・社会的支援とプレゼンティーズムの関係の記述では、「会話時間が減った」、「社会的支援の人数がより低い」、「社会的支援への満足度がより低い」各集団でプレゼンティーズムが生じていた。重回帰分析の結果より、COVID-19感染拡大により行動制限が求められた期間において、感染拡大前より家族との会話時間が減少した場合や、社会的支援者の人数が少ない、支援の満足度の低い場合、プレゼンティーズムが生じやすくなると考えられる。 以上の研究は行動制限や生活の変化が求められた COVID-19 蔓延下のプレゼンティーズムと社会的交流・社会的支援の関係の解明に貢献し、新興感染症などの感染拡大時において働く人の健康の維持増進を目指す取り組みや制度の構築に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値あるものと認める。 なお、本学位授与申請者は、令和 6 年 2 月 19 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。			
要旨公開可能日： 年 月 日以降			